

2023年11月02日

団法 浦安青年会議所
2024年度理事長所信スローガン

「つなぐ」

理事長 柳 毅一郎

【はじめに】

若くて失うものがない今だからこそ、やれることがある。そう思い、26歳だった2011年の1月に勤めていた会社を退職し、若い世代の意見を反映させるために政治の世界に挑戦しました。しかしながら、市議会議員選挙に立候補するにも関わらず、浦安に地縁や血縁もなく、知り合いもほぼおりませんでした。肩書の無い名刺をつくり、がむしゃらに政治活動をした記憶があります。そして東日本大震災が起きた異例の事態の中、2011年4月の市議会議員選挙に、初当選をさせていただきました。そんな無名の若者を受け入れ、育ててくれた浦安の方々には、本当に感謝の念しかありません。

浦安青年会議所については、市議会議員の先輩達から、何度も勧誘を受けながら入会の決断を出来ないままに時間が経過し、2019年の7月ようやく覚悟を決めて、入会申込書にサインをしました。入会后、事務局にあった様々な資料を読み漁り、先輩諸氏が社会情勢に合わせ地域課題解決に向け様々な運動を展開し、浦安により良い変化をもたらしてきたことを知りました。浦安青年会議所の活動は次の世代また次の世代へと引き継がれ、青年に発展と成長の機会を与え続け、現在に引き継がれております。その理想や情熱、そして努力を知る度に、微力ながら自身も頑張らないといけないと思って今日まで活動をして参りました。

入会して本当に良かったことは、浦安生まれでもなく、浦安育ちでもない、そんな私としては、胸襟を開き話せる同世代の浦安の仲間ができたことでした。さらには、市外県外を含む、多くの仲間と出会い、そしてその数だけ、自分の価値観が拡がり、より広い視点をもつことができました。

そんな魅力に溢れている青年会議所は自己を成長させるためには最高の環境であります。様々な人と出会い、自己成長を遂げ、地域を牽引するリーダーとして飛び立っていく。そういった価値ある団体だと認識しています。

今では想像できないことですが、浦安は三方を水に囲まれた半農半漁の小さな漁村でした。度重なる自然災害に加え、人為的な災害にも見舞われました。本州製紙事件の際には流された工場廃液によって、漁業関係は壊滅状態に陥りました。町民のほとんどが漁業関係に従事していたため、町自体が失業状態になり、町役場も予算編成ができず、銀行融資も断られ、財政的にも破綻状態にありました。塗炭の苦しみを味わってきた浦安ではありましたが、そんな中、起死回生の一手として行った公有水面埋立事業を機に、地下鉄東西線の開通、漁業権の放棄、埋立地開発等のまちづくりを進め、今日の浦安市の姿である東京ベイエリアを代表する住宅都市、観光都市に大変化を遂げました。これは、浦安の住民が、変化を乗り越え、強い意思をもってまちづくりを行ってきたからに他なりません。

漁業の町から脱却した新たなまちづくりにおいても課題はありました。浦安市は全国各地から入居者が集まったニュータウンであり、居住者同士の連帯感の醸成が開発当時から重要な課題でした。そのため、新たなふるさとづくりを意識して積極的な親睦活動を推進してきた歴史があります。各自治会のお祭りや子ども会や敬老会活動等は、当初から地元のイベントとして開催され、現

在でも地域のイベ とし 継続しています。ニュータウンでありながら、伝統的な地域と同様の祭りやイベント等を生み出すことを試みてきました。これらの活動は、地域の新たな歴史性とアイデンティティを確立し、子ども達が浦安市を「ふるさと」と認識することを企画しているためと言えます。そんな中、近年は、担い手の高齢化が進み、こういった住民間を結びつける地域交流や振興を如何に継続していくかが今では課題となっています。

この地域を愛する人々を結びつけ、そしてふれあうことで、地域社会の絆の強化と、市民が元気となる、まちづくりを引き続き進める必要があります。我々浦安青年会議所は、市民が一体となり地域社会を盛り上げていく事業を作っていきたいと思います。そして、その事業をつくる過程において、浦安青年会議所メンバー一人ひとりの成長と、組織の成長に繋げていくこともまた求められています。

【市内資源を有効に活用したまちづくり】

スポーツには老若男女問わず熱中し感動を覚え、絆を育み、地域を盛り上げる力があります。これまで浦安青年会議所は様々なスポーツを通じたまちづくりを取り組んできました。近年は、新型コロナウイルス感染症の影響により生活環境が一変し、これまで当たり前のように開催されてきたスポーツを通じた交流やまちづくりは中止を余儀なくされました。スポーツは市民がいつまでも心身ともに健康で豊かな生活を送るうえで大きな役割を果たします。さらに、近年はスポーツの競技面だけでなく、まちづくりに活用するといった機運が高まっており、スポーツのもつ機能や特性はこれまで以上に重要になっています。2023年度浦安青年会議所は、市内スポーツチームとのイベントを企画する等、地域資源を有効活用した事業に取り組んで参りました。スポーツを通じて地域を活性化させている自治体は少なくありませんし、地域としてもさらに発展の余地があるのではないかと思います。スポーツは、心身を健康的にするだけでなく、地域を活性化する触媒として、このスポーツの力を活用して、地域コミュニティの活性化につなげて参ります。

また近年、浦安青年会議所では、私と同じように浦安出身でないメンバーや市外に住むメンバーが多くなってきております。活動の場として、浦安青年会議所はあるものの、その反面、浦安について主体的に学ぶようなことがなければ、浦安の現在の成り立ちや歴史を知らない人もいます。浦安は、他の地域にないまちづくりの歴史を持っています。このことは、今後の浦安のまちづくりを行う団体としても非常に大事なことであると考え、浦安のまちづくりの歴史を学ぶ事業を展開していきたいと考えます。市民にとっても今のような都市化が進んだ、浦安を見るだけではなく、今のような浦安市になるまでには、高潮や洪水等多くの自然災害を乗り越えた先人の苦労や、漁業を中心とした生活を根本的に見直し、職業の転換を決断した漁業者、テーマパークの誘致をはじめ、あらたなまちづくりをした浦安市の礎をつくってきた人々の勇気と努力がありました。浦安青年会議所が主導し、市民に浦安市の稀有なまちづくりの歴史を知っていただき、メンバーと市民が共に愛郷心を育んで参ります。

市内のスポーツチームやまちの歴史といった市内資源を有効に活用し、浦安というまちへの想いを高めるまちづくりに取り組みます。

【ネットワークを拡大する交流】

近年の浦安青年会議所は、メンバーの平均在籍年数が短期化し、入会3年未満のメンバーも多く在籍し、現役とOB・OGとをつなぐメンバーも多いとは言えません。また、コロナ禍の影響で、様々な交流が制限される時期があり、OB・OGと現役が強く結び付いているとは言えません。OB・OGの皆様は、浦安で活躍されており、様々な協力をいただければ浦安青年会議所としても心強いも

のです。組織の絆を一層強固にするOB・OG親睦会を開催し、現役メンバーとOB・OGがお互いを知り、改めてネットワークを構築する必要があります。40余年の歴史を紡いでこられた先輩諸兄姉より今後の活動や組織運営についてのヒントを得るためにも、語り合うOB・OG親睦会を開催し、さらに魅力ある組織となるきっかけとします。

また青年会議所のルールとして、全国一律で満40歳になる年の年度末に満期扱いとなり卒業となります。明るく豊かな社会の実現の理念の元、これまで地域のまちづくりに勤しみ一所懸命に活動してこられた会員に感謝と敬意を表す場として卒業式を設ける必要があります。卒業生に対しては、今までの功績を称えると共に、現役メンバーからの感謝の気持ちの伝わる卒業式を開催し、現役として引き続き活躍するメンバーにとっても、今後の青年会議所運動への意欲を高める機会にします。

【縁の下の力持ちの総務 凡事徹底そして改善】

私たちの団体は、「浦安青年会議所」という名の通り、会議を行うことからまちのための運動や活動を行うことができます。総務委員会は、浦安青年会議所における会議の開催、運営を司る部門であり、私たちの運動や活動の全てを支える根底です。近年では、事務局移転やコロナ禍もありWeb会議サービスの活用、アジェンダシステムの技術的改革等、様々な浦安青年会議所の改革を行ってきたと言えます。誰一人取り残さない持続可能な組織運営を意識し、限られた時間内に充実した会議を行うため、会として、対面とWeb会議サービスを併用してきました。会議中の一刻は全員で共有しうる貴重な時間であるとの意識をさらに高め、質の高い会議設営を行う必要があります。

また、浦安青年会議所は各種SNS媒体を保有しており様々な発信をしておりますが、近年の課題として、情報発信のプラットフォームであるホームページについて、来るべき45周年に向けても、ブランディングや、視覚的な認知しやすさ、メンバー募集についても改善を図るためリニューアルを視野に入れ取り組む必要があります。そういった一連の改革の中で、すべての基礎となる、定款、諸規定を理解することはもちろん、公益法人という法人格についても考えを巡らせていく必要があると考えます。浦安青年会議所は公益法人に移行してからこれまで、公益性の高い、まちの発展に資する事業を行うことでその公益法人格を維持してきました。入会后、私はこれまで公益法人格について所与のものと考えてきましたが、持続可能な組織であるためには、まずメンバー一人ひとりが、自分の所属する青年会議所はどのようなものか、その意義や目的、組織形態について理解することが重要です。各地青年会議所においても公益と一般の選択の機会が生じており、公益社団法人から一般社団法人へと移行する青年会議所が多くなってきています。まずは、メンバーが組織運営と法律・制度等について、改めて理解を深める機会が必要です。どちらを選択するにしても、議論をすることが重要であり、公益社団法人のメリット、デメリット、一般社団法人のメリット、デメリットを認識したうえで、メンバーが組織の在り方を議論し、理解していくことが、持続可能な組織運営へと繋がると考えます。そして持続可能な運営を鑑みた際、組織に必要なことは、組織を構成するメンバーが共通の目的を持っていることが肝要です。青年会議所のクリードはじめ基本理念を理解し、組織を構成するメンバーが青年会議所の活動や運動を実践することが組織を成り立たせます。総務委員会が主体となり、私たちの組織の理念や行動規範を理解浸透させることによって、浦安青年会議所の組織の力の向上に取り組んで参ります。

【公益社団法人浦安青年会議所45周年記念への準備】

浦安青年会議所は、1981年の創立以来、明るい豊かな社会を築くために多くの事業を展開し、

2025年には創立45周年を迎えます。私たちが先輩方から引き継いだ伝統を次世代へと繋いでいくためには、受け継ぐ担い手とその担い手へ引き継ぐ機会が必要です。2025年の45周年記念事業は、まさに絶好の機会と言えます。浦安青年会議所として、この機を逃さず、10年また20年先の浦安青年会議所の未来をつくるべく、OB・OGや地域関係団体との関係強化、45周年記念事業の調査研究等、45周年記念事業開催に向けて、着実な準備に取り組んで参ります。

【思いやりを育む青少年育成】

言うまでもなく、青少年は未来のまちをつくる担い手であり、青少年の育成は、まちの未来をつくることと同義です。例年浦安青年会議所は「わんぱく相撲浦安場所」を開催していますが、そこで参加者は、相撲という競技を通じて、ライバルと競争する中で様々なことに気づくことになります。

こどものころの経験は、大人になってからの人格に大きな影響を与えます。練習を重ね努力が報われ勝利するといった経験は大事なことであります。それと同時に、努力の末に負けるといった経験も大きな成長のチャンスとして捉えてほしいと願ってやみません。長い人生では「失敗」や「負け」は避けがたく、「勝ち」だけにこだわり「負けたら終わり」「勝つことにこそ意味がある」とする考え方は、将来的な人格形成やこどもの可能性を狭めてしまうことになりかねません。早いうちに「負け」を知ることも大事なことと考えます。失敗や負けから立ち直る。その過程で人にやさしくなれるきっかけとなるのではないかと思います。また、そういった時こそ、周囲の大人の姿勢や声のかけ方が大きく影響するのではないかと思います。相撲という競技を通じて、こどもたちは、感謝の気持ちや尊敬の念を学び、目の前の困難に耐え、乗り越えていくことができ、困難を乗り越えていく経験をするようになります。このことは、こども達へ肉体的のみならず精神的な成長の機会を与えることとなります。『自他を尊重する心』を浦安市教育ビジョンでも基本目標に据えておりますが、こうした素質を得て育った青少年こそが、将来的の浦安を担い得ると信じております。

また、競技中のひたむきな姿は、保護者にとっても成長や頼もしさを感じられるものとなります。努力する子供たちが、礼儀・礼節を学び、勝ち負けの喜びや悔しさだけでなく、相手に対する配慮や振る舞いを学び、こどもたちの心身の健全な成長を促す機会として「第36回わんぱく相撲浦安場所」を今年も開催します。

【全員での拡大】

まちの活性化のためにはまずは、青年団体である私たちの組織の発展が必要です。そして組織が持続的な発展を遂げるためには、メンバー一人ひとりの成長はもとより、絶えず仲間を募る必要があります。特に40歳で卒業という制度がある青年会議所は、少しでもメンバー拡大を疎かにすると、瞬く間に組織存続の危機に陥ります。

メンバー一人ひとりが会員拡大における能動的な当事者としての意識を持ち続け、さらなる会員拡大に向けた動きを計画しなければなりません。そもそも、会員拡大の担い手であるメンバー一人ひとりが、少なくとも「青年会議所とはどのような団体なのか」、「なぜ私は青年会議所に入会しているのか」の問いに対して答えを持っており、青年会議所の運動や活動を知らない拡大対象者に、自分の言葉で説明できなければなりません。そういった意味で現在は、青年会議所活動・運動の経験の浅いメンバーが多いため、育成の意味もこめ、拡大に成功した各地青年会議所の事例等を調査し、成功要因を学ぶことも必要です。何より、浦安青年会議所として、人が人を呼ぶ組織になる必要があります。

【千葉ブロック大会へのメンバー参加・参画促進】

青年会議所に 各地の青年会議所に所属しながらも日本青年会議所や各都道府県のブロック協議会に構成メンバーとして所属して活動を行う出向制度があります。メンバーが出向を経験し、出向先で各地青年会議所出向者と切磋琢磨し、成長することが可能となります。その経験はメンバーを浦安と浦安青年会議所を牽引するリーダーへと成長させます。私もかつて千葉ブロック協議会に委員長として出向をさせていただき、成長と発展の機会を享受いたしました。その経験や仲間との出会いが、今の私の青年会議所での活動や運動の基礎を形成していると言っても過言ではありません。2024年度浦安青年会議所では、メンバーが千葉ブロック協議会ブロック大会委員会の委員長として出向を予定しております。委員長はじめ千葉ブロック協議会へと輩出するメンバー達の支援も含め、事前準備から浦安青年会議所全体としてメンバーの参加・参画を促します。

また千葉ブロック協議会の最大の運動発信の場となるブロック大会については、千葉県内の魅力や強みを最大限発信し、郷土愛を高め、魅力ある価値を創造し、持続可能な千葉県を確立するといった目的に基づき、浦安青年会議所として協力及び積極的に参加・参画して参ります。

【むすびに】

「早く行きたければ、一人で進め。遠くまで行きたければ、みんなで進め」
諸説ありますが、アフリカ起源の諺ではないかとされており。

地域にインパクトを与えるような事業をすることは簡単なことではありません。また、事は一人から起きますが、決して、一人では進むことはありません。つまり、一人でできることは限られていますが、そこに仲間の力が加われば、その可能性は広がり、加えて浦安青年会議所の活動に共感し、支援の輪が広がれば、さらに拡大することとなります。私は入会后、チームの大切さを学び、その意義を噛みしめて参りました。そういった経験をもとに、浦安青年会議所の可能性を信じてやまないものとして、この価値ある浦安青年会議所に対し、2024年度理事長として責務を果たして参りたいです。私は2024年度をもって、浦安青年会議所を卒業します。私が自分の大事な価値観として持っていることは、「前の世代からもらったものを、次の世代へより良い状態をつなぐ」ことです。「我々の世代が良くやってくれた」という言葉を後輩から言ってもらえるようメンバーには心がけ、活動をしてほしいと願います。勿論、私自身、率先して参ります。最後になりますが、意気あふれ、活気に満ちあふれた「浦安青年会議所」を次世代に引き継ぐため尽力して参ります。

【事業計画】

1. 誰一人取り残さない持続可能な組織運営
2. 拡大を推進する事業の開催
3. メンバー全員で行う15名の拡大
4. 第36回わんぱく相撲浦安場所の開催
5. 地域が活性化するスポーツ事業の開催
6. OB・OG親睦会の開催
7. 組織の在り方を考える事業の開催
8. 市内資源を活用したスポーツ事業の開催
9. 市内資源を活用した浦安の歴史を学ぶ事業の開催
10. 公益社団法人浦安青年会議所45周年記念事業・記念式典への準備
11. 第57回千葉ブロック大会 茂原大会へのメンバー参加・参画促進
12. 総会の開催
13. 卒業式の開催
14. SDGsに関連する事業の実施・協力
15. 友好団体との連携・協力
16. 公益社団法人日本青年会議所への積極的な支援・協力
17. 公益社団法人日本青年会議所、関東地区協議会、千葉ブロック協議会の諸会議・諸大会・諸事業への積極的な参加